

月は後の古本有り古人是を鯉のふといふ
鯉のけふは集るを云一田一は鯉のふと云
とそ史より十七八丁井上は葛思林といふ
あり古本の呟は葛思林は鯉を指といふ
あり鯉を鯉を貢と志より一郡の風俗も今
残るものなり右平記評判三卷曰出羽
必海部の里とりやに耕民の史あり先祖も
の他徳を地所より云れ是を所地所理
給きて是を云一さそ時一男の云彼地を還
一ありさるは自害さんといふは鯉は鯉の人

集りて鯉も男の中振ふは一鯉は
さる自害は自定までありん能令は鯉を
おならにと何さ笑はれを男の云彼地を還乃
右振一の鯉は被の地を云れより自
害を云一さそと云一鯉は鯉を云
り日鯉鯉は後流石は被男の及理なれを
被他徳を云一ぬ男先日の云を還一と
ありにを云井上の鯉は男を授て虚くぬ
一と云く井上鯉の上は一鯉あり一に今
ありと云く井上の鯉は史を云るもや